

スキトレ企画書

作成日：令和5年10月17日

校名：筑紫神社前校

企画者：山口

活動名：お片付け玉入れ(競技 Ver.)

本活動の着眼点

人への声かけ・集団に合わせた行動が苦手な児童に着眼し、馴染みある活動を通じたアプローチを考え立案。

本人支援5領域とのつながり

健康・生活 認知・行動 運動・感覚
人間関係・社会性 言語・コミュニケーション

生活上の困り感(実施者に確認して頂きたい内容)

目的・趣旨(OT 的視点)

- ・マイペースでお友達に合わせるのが苦手
- ・お友達への声かけが苦手
- ・自分の気持ちを伝えることが苦手
- ・物体の色や形の認識が上手く行えない

- ・協調性を育む
- ・社会性を育む
- ・感情の表出(喜怒哀楽)
- ・視知覚機能の向上 ※ボール・ゼッケンの色分け

作業の特色

- ・年齢に関係なく実施・参加することができる
- ・競技性によって、仲間と協力する・勝つための方法を模索することができる
- ・リーダー経験をしてもらうことで、お友達への声かけを学ぶことができる

活動の概要(実施者に確認して頂きたい内容)

【場所】 活動部屋	【人数】 10人程度	【必要な道具】 ・ボール2色(カラーボール、お手玉等) ・カゴ2つ(買い物カゴ等) ※ボールが入るなら段ボール箱・大きめの袋でも可
【所要時間】 約20分～30分程度		・ストップウォッチ(タイム制の場合のみ)
【対象者】 年少児～小学校高学年		・ゼッケン、シール ※チームカラーの明確化

競技 Ver.の特徴

- ・作戦会議の時間でお友達と考えを共有する
- ・お友達と連携(役割分担等)できているか確認する

活動の進め方

【進行方法・ルール】

- 1) 活動の事前準備 →ボール、カゴの準備。机などの移動
- 2) 活動の声かけ
- 3) ルール・活動の内容について説明
- 4) チーム分け ※人数に応じてチーム数は変更可能
- 5) チームのリーダー決め ※リーダーは「特に対象としている児童」や「高学年の児童」を選ぶ
- 6) ボールを入れるカゴの設置ならびに設置場所の確認
※2ブースに区切って実施可能(その際はストップウォッチで時間を計測)
- 7) 2種類のボールを部屋全体に広げる
- 8) 作戦会議の時間を3分間設ける。 作戦例) AくんBくんが窓側を拾う。C君がカゴの前で受け取る等
- 9) 活動開始

スキトレ企画書

活動説明時の流れ

- ① 玉入れに使用するボール2種類とカゴを見せる。その際にチームカラーを伝える。
- ② 床にボールを広げ、チームカラーのボールをカゴに入れるゲームとして説明する。
- ③ 先にボールを入れ終えた(分けて実施する際はタイムの早かった)チームが勝利。

活動時のお約束

- I. ボールを入れる時に投げ入れない。
- II. お友達が集めるのを邪魔しない。
- III. お友達のことを悪く言わない。

【進行上の留意点】

- ・事前に、人が集めたボールを取るとケンカになりタイムが遅くなることを伝える。
- ・ボールを入れる器が袋の場合、ボールを入れる口が常に広がった状態にしておく。
- ・児童の学年や力量に応じたチーム配分を行う。

【役割：進行・補助】スタッフが計3名以上いると好ましい

進行・審判：スタッフ①

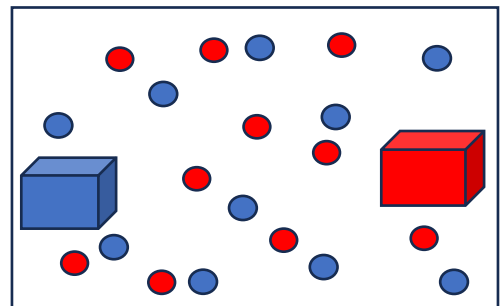
トラブル対応：スタッフ③

補助・タイムの計測：スタッフ②

スタッフの着目点	活動を行う上での注意点
<ul style="list-style-type: none"> ・負けた際に気持ちの切り替えができていないか ・チーム内でトラブルが起きていないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に児童同士の衝突リスクが考えられる ・他児童の失敗を批判する児童が出る可能性がある
予算	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボール2種類(カラーボールなど各事業所にあるもの) ・カゴ2つ(買い物かごや段ボール箱など各事業所にあるもの) 	計0円
その他	
<p>・「遊び」と「活動」の差別化を図るためにボールで実施 実際のおもちゃを使用した活動になると、「遊び」の延長線上という認識で遊びだす恐れがあるため</p>	
実施イメージ	



カゴのフチ(黄色線)の中まで手を入れて
ボールを入れる



上図のように、全体的に2色のボールを広げて実施する。



すべて片付け終えて全員が
着席した所までのタイムを計測する